

主要行等の令和元年 9 月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 令和元年 9 月期は、国内の低金利環境の継続が資金利益の下押し要因となったことに加え、引当金の戻入れが前年比で減少し与信関係費用が増加したことなどにより、当期純利益は前年同期に比べ▲10.6%の減少。

（単位：億円）

	平成 29 年 9 月期	平成 30 年 9 月期	令和元年 9 月期	前期比
連結業務粗利益	52,007	52,018	52,433	416
資金利益	24,519	24,541	23,064	▲ 1,477
役務取引等利益	16,277	16,903	16,727	▲ 176
その他業務利益	5,379	5,185	6,192	1,007
うち債券等関係損益*	1,540	266	3,996	3,730
経費	▲ 34,137	▲ 34,086	▲ 33,905	181
連結業務純益	18,446	18,390	17,964	▲ 426
コア業務純益*			8,058	—
コア業務純益* （除く投資信託解約損益）			8,070	—
与信関係費用**	949	1,498	▲ 751	▲ 2,249
株式等関係損益	2,428	2,954	1,505	▲ 1,448
親会社株主に帰属する当期純利益	15,816	17,454	15,610	▲ 1,844

*債券等関係損益、コア業務純益については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

	平成 29 年 9 月期	平成 30 年 9 月期	令和元年 9 月期
貸出金（末残）***	299.0 兆円	304.2 兆円	304.3 兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は平成 31 年 3 月期に比べ横ばい、不良債権比率は上昇。

	平成 30 年 9 月期	平成 31 年 3 月期	令和元年 9 月期
不良債権額	1.8 兆円	2.0 兆円	2.0 兆円
不良債権比率	0.54%	0.58%	0.61%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率は平成 31 年 3 月期に比べ横ばい、Tier1 比率は低下、普通株式等 Tier1 比率は上昇。

- 国内基準行の自己資本比率は、平成 31 年 3 月期に比べ上昇。

（国際統一基準行：4 グループ）

（国内基準行：3 グループ）

	平成 31 年 3 月期	令和元年 9 月期		平成 31 年 3 月期	令和元年 9 月期
総自己資本比率	17.83%	17.83%	自己資本比率	10.52%	11.16%
Tier1 比率	15.39%	15.36%			
普通株式等 Tier1 比率	13.31%	13.41%			

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。